



令和3年8月15日の梓川頭首工
(左上、右下の写真)

梓川頭首工に流木被害の様子



左下の写真 奈川地区の農道の崩落現場

令和3年8月の大雨について

令和3年8月お盆の期間に降った大雨は、記憶に新しいところかと思えます。被害にあわれた皆様には心よりお見舞い申し上げます。

梓川流域の農業用水の取り込み口である梓川頭首工についても流木被害があり、ゲートの操作ができない事態になりました。また、市内の農地や農道でも被害がありました。

8月の大雨では、人的被害はありませんでしたが、我々は常に自然の恐ろしさを認識しておかなくてはならないと感じました。

《主な内容》

農業委員・農地利用最適化推進委員の改選について

がんばっています
(安曇地区 良波 岳さん)

売りたい・貸したい農地情報
レインボーまつもと 21

“現場の声”
(波田地区 輿 朋博さん)

よもやまばなし

頭首工とは...農業用水を河川から取水するために、河川を堰き止めて水位を上昇させ水路へ流し込む施設

中山・寿・内田



農
内田
丸山 茂実
農業振興委員会



農
中山
太田 辰男
情報・研修委員会



農
寿
河西 穂高
情報・研修副委員長



推
中山・寿・内田
赤羽 武史



推
中山・寿・内田
松田 和久

旧市・岡田・本郷



農
旧市
小林 康基
情報・研修委員会



農
岡田
中條 幸雄
農業振興副委員長



農
本郷
柳澤 一向
農業振興委員会



推
旧市・岡田・本郷
西村 博

笹賀・芳川



農
笹賀
矢嶋 壽司
農業振興委員会



推
笹賀・芳川
平林 哲



農
芳川
窪田 英明
農業委員会会長代理

入山辺・里山辺



農
里山辺
中川 敦
情報・研修委員長



推
入山辺・里山辺
中野 千尋



農
入山辺
武井 茂善
農業振興委員会

新村・和田



農
新村
細江 弘光
情報・研修委員会



農
和田
塩原 俊昭
農業振興委員会



推
新村・和田
中平 茂



推
新村・和田
田中 孝人

神林・今井



農
神林
塩原 秀俊
農業振興委員会



農
今井
田中 悦郎
農業委員会長



推
神林・今井
松下 秀一



推
神林・今井
田中 武彦

安曇・奈川・梓川



梓川 倉科 孝明
情報・研修委員会



奈川 橋本 実嗣
農業振興委員会



安曇 齋藤 勝幸
情報・研修委員会



安曇・奈川・梓川
山崎 和男



安曇・奈川・梓川
長崎 作夫



安曇・奈川・梓川
齋藤 知彦

島内・島立



島内 河野 徹
農業振興委員長



島立 濱 博
農業振興委員会



島内・島立
堀内 俊男



島内・島立
北野 喜八

四賀



四賀 久保 節夫
農業振興委員会



四賀 梶原 知子



四賀 大澤 好市

団体推薦・中立委員



まつもと農村女性協議会
林 昌美
情報・研修委員会



JA あづみ
二村 喜子
農業振興委員会



JA 松本ハイランド
三村 晴夫
農業振興委員会



長野県梓川土地改良区
上條 信太郎
農業振興委員会



中立委員
瀧澤 和子
情報・研修委員会

波田



波田 塩原 至
農業振興委員会



波田 奈良澤 治



波田 中澤 一海

新しい体制の農業委員会です。
地域の皆様と一緒にがんばっていきます。
今後ともよろしくお願いたします。

農 農業委員

推 農地利用最適化推進委員

現場の声 人を大切に 後半

話し手の紹介

興 朋博さん(34)

波田地区 ねぎ生産・販売



じかなと思います。ずっと畑に置いておきたいのですが、そのまま置いておいたら、ダメになってしまっんですよね。箱詰めまできちんと出荷しますが、出荷という言い方も嫌なんです。食べる人も本当は自分で選びたいくらいです。

河西 その気持ちわかる気がします。

興 本当は県外ではなく、地元で食べてもらいたいです。松本で食べられているねぎはほとんどが関東のもんです。松本で育ったねぎを松本で食べてもらいたいですね。

河西 どうしてねぎを作ろうと思ったんですか？

興 ねぎが好きだったことと、作り方も知っていたからです。あとは、当初はお金を稼ぐことを考えていたので、機械化して人を雇えばお金を稼ぐことができるかなと思いました。でも今は少し違います。ねぎって手間がかかるんです。掘って、皮剥い

て、切って、箱に詰める、工程が多い分、人手がいるんです。一人で農業するのが好きではなくて、多くの人と関わって作る方が楽しいなと思っています。

河西 どんな人が関わってくれているんですか？

興 従業員やアルバイトの方がいます。あとは、就労支援施設からも来ていただいています。

3年前前に、思い立って3カ月くらい障害者支援施設にボランティアに行きました。その時、職員の方から、「ここにいる障がい者の人はもともと、それほど重度ではなく、若い頃は仕事していて、地域の農業の草むしりに行っていた。最近機械化が進んで、農業関係の仕事がない」と聞きました。すべて機械化することがいけないと思いい、昨年、就労支援施設に連絡して、今、障がい者の人に毎日来てもらっています。その人たちと接するうちに障がいって何かな、自分と何が違うかなと考えた時、これは性格が違うだけなんじゃないかと思いました。その人たちに払っている時給は少し安いのですが、国から補助が出て、その人たちの手元には、最低賃金より多くのお金が渡るようになってい

ようで、うまくいくように制度が作られていると思います。多くの方が助けてくれるおかげで、農業ができていけるので、これからも人を大切にしていきたいです。

河西 これから新規就農する人に向けてメッセージをお願いします。

興 初期衝動を忘れないようにしてほしいですね。お金が稼がたくて始めたならその気持ちを、農業がやりたくて始めたのなら、農業をやりたくて楽しいことを忘れないでください。何のために農業がやりたくて就農するのか忘れないでほしいですね。



